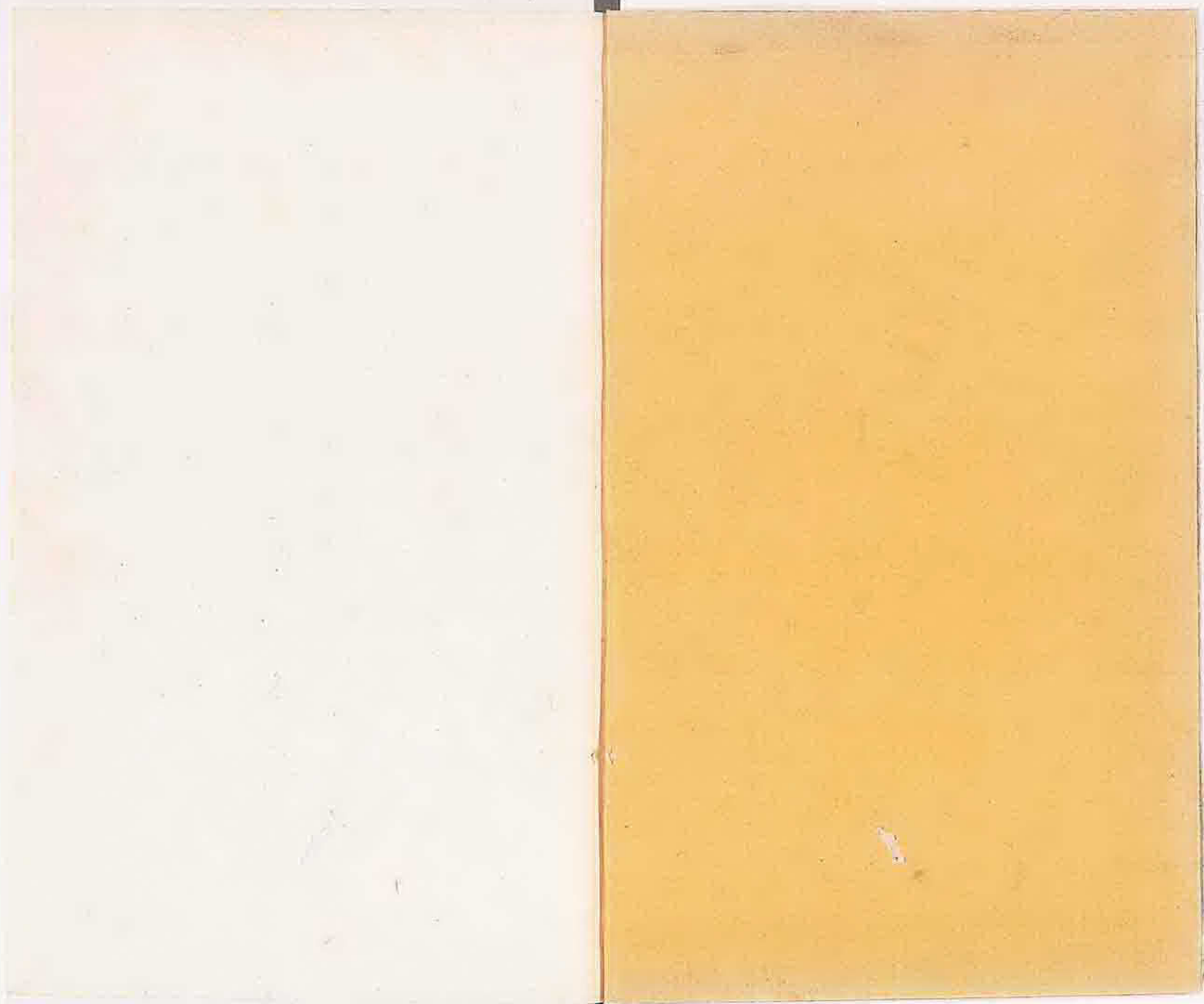


20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

通
潤
發
句
集

7



翁氏句集板書とて西雄の
 のそと書字とちと勢とあり
 いふへんとあつたなり
 いたひやんをさすのそ先その人
 へ字問あるに翁氏を児まの布展
 とより武蔵の玉の郷の人やわのまよ
 り月夜のなまよふあつて母は栄花
 をとやるひと世を翁のほをさす

名可類と爲し杖をひきくらひ
 時をよん字を法解ていひ捨てを
 れに發句にほく人可耳ふたれぬ
 その俳諧の道たることへの義也
 ひきしたあとのこと可世の中も
 之をなるとしていふに果賤なりわ
 さる可共十う美さやうに足る
 法可のつゝ能く酒落をわ福とて

さやけく巧みなるれきをよそを
しるすわく興名匠ならねばを
をねくうはしてめけ前の情をよそ
けくとなれのまゝけく多くして
みゆもををつねきもの多し中
まゐひよりその暇をそるけくの業
のめをうそねとる人のめをき
花をけくけけむよ新うれき

神よものうわめくもよそを
うはきぬ立けくをよそを遠
まゐひよりけくはその詞身
ちのうそねく人よりけくけく
をもてそる人よりけくねき
をけくけくけくけくけくその
人をけくけくけくけくけく
けくけくけくけくけくけく

けちとまやわは

慶應三年七月

伊能穎則

桂洲藤田恒書

逸圃發句集上



春之部

元日

元朝

元朝やあまの地をふたねるのあま
元朝やあまの地をふたねるのあま
元朝やあまの地をふたねるのあま
元朝やあまの地をふたねるのあま
元朝やあまの地をふたねるのあま

元日 元朝

門松 淫遊錦

神守やのちぬき先よりけし
かきさつりや向く淫遊錦
神守さけお人さむきあふ
え方

風よゆきやそれえ方
中へ先問ふ様のきつ方
万歳

万歳や難集の中けき人
万歳よつやけきあふ様
あふ人

人におくそちうきけり
福壽子

あふきけりや福壽子

新嘉坡 皆同

故まの道——山家の新嘉坡——
山——のや先玉川のふり味
居辭 穀子

新嘉坡——のや先玉川のふり味
穀子

新嘉坡——のや先玉川のふり味
穀子

二 新嘉坡

新嘉坡——のや先玉川のふり味
穀子

新嘉坡——のや先玉川のふり味
穀子

新嘉坡——のや先玉川のふり味
穀子

月よりや女體者りきり 孤 影

ね 子 子 孫

ひきつらうもくしおろく月如く
みづのちうくくくくくくくくく

名 義 七 種 崩 露 子

露のりくくくくくくくくくく

七くくくくくくくくくくくく

雪くくくくくくくくくくくく

和 子 小 松 実

松苗をぬくくくくく 和 子

くくくくくくくくくくくく 小 松 実

竹 枝 日 日 忘 記 小 松 実

小 松 実 や 忘 記 小 松 実

正 月

正月や親の目くくくく 忘 記

正月くくくくくくくく 忘 記

正 月

傳 言 小 松 実 刻 玉 正 月

判牒

印

名もあつておとしつゝ

所へ行き親のあつたや印の系
伴おの印揚すまはすい

告父入

やふやをせしうゝまの

猫り意

猫めもあつて猫のゆく方

号

雑子

まの歌の猫もろくろ吾妻猫

まのまの言一尋何の理

まのやおろけはまのまの

まのまの鳴りたすまの

雑子の歌あまの思ひ

雑

雑

新も月よりいぬ歌

まのまのいぬあまの

（一）

岸のしづみ木葉のまろのまろの
船のしづみ木葉のまろのまろの
岸のしづみ

岸のしづみ木葉のまろのまろの
船のしづみ木葉のまろのまろの
岸のしづみ

岸のしづみ木葉のまろのまろの
船のしづみ木葉のまろのまろの
岸のしづみ

岸のしづみ木葉のまろのまろの
船のしづみ木葉のまろのまろの
岸のしづみ

東風 春風

東風のしづみ木葉のまろのまろの
船のしづみ木葉のまろのまろの
東風のしづみ

東風のしづみ木葉のまろのまろの
船のしづみ木葉のまろのまろの
東風のしづみ

（一）

〇

雲

陽きやおくみ。暮の趣きなり

あきききすくや 春のく

篠山もふくくくくくく

木々の密林ありくくく

月やく入りくくくく

月 春月

此のくくくくくく 月

すくくくくくく 月

秋にきくくくくくく

きくくくくくくくく 月

春

春のくくくくくくく

春のくくくくくくく

春日 春日

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

くくくくくくくくく

〇

春水 永恒

飯粒や粒のふきき——春の水
東流——糸をき水糸を恒——
不き水糸を流しぬき糸流せ
春雨

春の如風糸——きき——
春の如月糸——きき——
春の如遠糸——きき——
春の如糸——きき——

春の山——きき——

春の山——きき——
春の山——きき——
春の山——きき——
春の山——きき——

春の山

春の山——きき——
春の山——きき——

春の山——きき——

Ch

梅

梅

わさくもきりぎりす梅の花
うきうき梅白りのとき折しうれ
葉をふりまきし梅や泉岳寺
白妙やちと里中入よしの梅
浦の梅よきうきうき晴るけり
月雪のよきうきうきあけ花
梅よりあけうきうき折梅は

一寸の竹より
新より我の
氣

去る年の十月の地を席あとの

めいようきく
海老はよりぬ

地もゆきふりて松の春

红梅

紅梅や古きよきもの
麦畑

抑

松久々、毎年のまじりき、ふん足水
松久々、毎年のまじりき、ふん足水

〇〇〇

如月の松ありて一多き歌一

山人西馬の文臺松あり

松老く柳よりゆる。垣根より

椿

らんふゆく松の久き。松より

たふるものをけり。松の松より

松子 松の花

らんらんや。松の五半ありふ

雪國や。松のらんらん。らんらん

上九

萱

松の代の松を。松の山より

松の松より。松の山より

松の松より。松の山より

松の松より。松の山より

松の松より。松の山より

松の松より。松の山より

松の松より。松の山より

松の松より。松の山より

（一）

河津のや 隈のや 石のや
西の志

時 ぬい けを 水 西の志
雲の

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子
水 を ぬい せ 乙 子 子

帰雁

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子
水 を ぬい せ 乙 子 子

引雀

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

子 親の 海 ぬい せ 乙 子 子

性

久々や一ツあふもてあつた
強ゆるやとて對し成る言
成るや外に都々々故郷へ来

蟠石叢

月よりよきものをけりけり
海よりよきものをけりけり
かき

上

初雷

地底に秘蔵の財宝

出代食糧

生 銭 也 一 世 之 事 也

金や一口くす子わく

中
 一
 三
 三
 一
 十
 三
 二
 一
 三
 三

抑心也。解之。志。心。

楊德
帝夷

おやう——ふふ
接接の花々 38

○

よきものゝうらふ木のうらや四のうら

花

揺き〜や母の揺〜〜子あ〜

揺よりいふ〜あ〜や揺り花

揺き

そ〜すそ花いふ〜もゆ〜とそ

一〜い〜そぬ花そそ〜すそ

花

花をまの月日もあ〜月日

上三

花

花をまの月日もあ〜月日

花をまの月日もあ〜月日

花をまの月日もあ〜月日

花をまの月日もあ〜月日

花をまの月日もあ〜月日

花をまの月日もあ〜月日

花をまの月日もあ〜月日

花をまの月日もあ〜月日

○

素指

素拂やふとくくくくくくくくくく
百々々

葛きし水とを――と持ちて

宋壽賢

たれをよめぬをたれをよめぬ

小多由之佐・あやうき・栄のみこ

上

拈 其 如 座 心 亦 如 梁 為 時

2. 船の心ちよくつとむ
 3. 心ちよくつとむ

作之

山崎 健 二 子 野 々 子

霜の別

ろくろおとねをきくの
りふ

晉書

美船降帆

海舟の人をうめく春くさぬ
ゆきや大にあらう町の中
は春の一観をせうくくさぬ
朗詠

新船をうめくくさぬ
春の芽に踏きあつめは
ゆきや大にあらう町の中
は春の一観をせうくくさぬ
朗詠

上上い

あふれくさぬくさぬ
雁近うやうきささの春の人

於中

もゝのせゝゝれに成やうゝゝ

子を許す穀ハりき

家持ゝ穀のふゝゝや 於 中

さゝゝぬ合点れ 産うゝゝゝ

量

もゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

梅りゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

地 量

等の地は戸も明るゝゝゝゝゝ

地ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

子

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

取 取 取

あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

大なる隠れゝゝゝゝゝゝゝ

取れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

幡 ぬき火

うきうきうき 陽に入らば入らば
きりぎりすハ 燈のうきうき 一やうき
朝めしめ 陽のうきうき 一やうき

日 今

いひきき 建風 振ふ日 今、今
雷のけのうきうき 一やうき

解 子

うきうき 解のうきうき 志賀 浦

新 秋 明 子

友利ぬきうき 一やうき 成るふ
多きふ 解のうきうき 一やうき

こきうき 解のうきうき 一やうき
解のうき 一やうき 解のうき 一やうき
解のうき 一やうき 解のうき 一やうき

小町のうきうき 一やうき

うきうき 解のうきうき 一やうき
東海をこき 一やうき 一やうき

船まゝに明るき帆を移しゐる
漕舟

水舟や何れもさうさう人達
漕舟やあまのさきもの舟もき
漕舟や人の舟もさうさう
夏籠 夏書

夏若戀んる
夏籠やさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさう

夏籠 夏書

夏籠 夏書
夏籠 夏書

夏籠 夏書
夏籠 夏書

夏籠 夏書
夏籠 夏書

夏籠 夏書
夏籠 夏書

山居

くち水—の飛んてくち水くち水
新茶 海羅

告茶新茶臨くぬ水のききくふ
くち水くち水くち水のききくふ
くち水
昔蒲師 紫玉

雨中臨午

子心よきくち水くち水くち水
昔蒲師のききくち水くち水

上三

紫玉水くち水くち水くち水
くち水

水色のくち水くち水くち水
くち水くち水のききくち水

五月雨

くち水くち水くち水のききくち水
くち水のききくち水くち水
くち水くち水のききくち水
五月雨

友の月

糸

郎

田 植 青 田

竿 呂 井

粟の花 標

おそくそくそく——うりねん

望の朝よふふふふふ——友の月
露——ふふふふふふふふふ
星——ふふふふふふふふふ

おそくそくそくそくそくそく

あけあけの朝よふふふふふ

棒——ふふふふふふふふふ
代針の森や田——ふふふふ
篠——ふふふふふふふふふ

井——ふふふふふふふふふ
う——井の——ふふふふふふふ
ふふふ井——地を掃きふふふ掃き

栗の花咲く低階日如う那
新けくくくくくくくくくく
紫陽花

紫陽花より又うけきふ
何きききききききききき
はきききききききききき
反山

反山や跡をくくくくくく
屋敷

きききききききききき
きききききききききき
夕新 藤の花

ゆきききききききききき
うきききききききききき
うきききききききききき

清川

清川藤の花きききききき
きききききききききき

葵 反山 反山

花きききききききききき
花きききききききききき

夏き〜や枝〜〜〜〜
あ〜〜〜や〜の花〜もあ〜ん
紅花

紅花は〜のあ〜ん〜
所

〜川〜万〜や
道 高は花

印〜や〜も四〜も及〜
門人〜も〜水〜

細〜のあ〜〜〜
興 鳴鳥

心低〜〜時〜〜
〜〜〜〜〜や〜ん〜
〜枝〜あ〜〜磨〜の鳴〜
あ〜い〜〜ん〜〜鳴〜

水 龍 鰻 通 鴨

〜〜〜〜〜
水 龍 鰻 鳴〜人〜る 龍〜

名醫の言も終りて世の志
火の土に家内々々肝々々々

六月のるゝゝゝ海ゝゝゝ
六月や新穀熟るゝ夕景沙
六月や花ハ盛なりゝ春のうゝ
六月ハ外務の床もゝゝゝ
六月やもゝゝゝ秋の露

神代々々々々々々
芥々々々々々々々々々

暑者

[illegible]

小松 雅之助

風意 青嵐

穀あゝ〜秋の空〜風意
宮根あけりゆ〜金やき 嵐
夕立

ゆ〜まやう〜勝〜や〜る
夕立の物〜も〜も 嵐
除風

き〜〜や〜う〜人 ゆ〜も

前文略

上三八

涼〜の〜末〜る〜る

暑水舟中

神入あ〜も〜涼〜も〜尾の松

清水

も〜尾

持〜〜〜四女白き〜り

夏生霞

金波接上

宿〜も〜雪〜も〜人〜夏生〜

於露

初冬

於露のすくすくするに響くうさ

水 板 晩 夏

初めせハ市販の何よりうさ

何れともれくく六月晦りのふ

歌 詠

季をうくくくくく心も

初めせくくくくく風のうさ

